

熱中症に 注意!

「おかしいな」と思ったら早めの対応を

熱中症は、暑さによって体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温をうまく調節できなくなることによって起こります。屋外だけでなく、室内でも発症することがあります。特に高齢の方は、暑さやのどの渇きを感じにくいので注意が必要です。熱中症が疑われるときは、できるだけ早く体を冷やすことが大切です。特に、首の両側、わきの下、足の付け根など、太い血管が通っている部分を冷やすと、効率よく体温を下げることができます。

熱中症対応の3ステップ

① 涼しい場所へ移動



AVA血管
体温調整
する血管



手のひらや足の裏を、
少し冷たい水(10～
15℃くらい)で冷やす
のも効果的

② 首・わきの下・足の 付け根を冷やす

保冷剤や
氷のうを
当てる



衣服をゆるめ、
熱を逃がしやす
くする



③ 水分と塩分を補給する



意識がない、呼びかけへの
反応がおかしい、自力で水
分が飲めない場合は、すぐ
に救急車を呼びましょう。



Student Seminar

高校生対象

臨床検査技師職場体験

★ 集合時間 14:20 終了予定 17:00

8月12日(水)・17日(月)・20日(木)

申込期限:7月31日(金) 16:00まで

事前申込が
必要です
フォームは
こちらから



お問合せ
亀田総合病院・臨床検査部(担当:大澤)

☎ 070-7097-3312(担当直通)



臨床検査部
ご紹介

地域連携 小児夜間・休日診療

当院では、地域の小児科の先生方と連携を取り、夜間や休日で小児の急病の場合に常時診療可能な体制を整えています。

受診される際は、事前に代表番号まで電話連絡をお願いいたします。

TEL04-7092-2211

診療	平日	夕方18:00～朝8:00
	土曜日	昼12:00～夜24:00
	第3土曜日・日曜日・祝日は終日	



こども急病電話相談 #8000

受診の目安など
困った時に

献血
のお願い

●日時 7月28日(火)

10:00～12:30

13:45～15:45

●場所 亀田総合病院

Kタワー

正面入口ロビー



ご予約はこちらから

お一人でも多くの方
のご協力をお願いします



第1話 脳卒中って、どんな病気?

「脳卒中」と聞くと、多くの方は「突然倒れる怖い病気」というイメージを持つかもしれません。

実際に脳卒中は、ある日突然起こります。さっきまで普通に会話していた方が、急に片方の手足が動かなくなる。言葉が出なくなる。意識を失う。脳卒中は、非常に多い病気の一つであると共に、現在でも寝たきりや介護が必要になる大きな原因となっています。

一方で、近年は治療法が大きく進歩しており、「助からない病気」から、「早く治療すれば回復を目指せる病気」へと変わりつつあります。今回はまず、「脳卒中とはどんな病気なのか」を簡単にお話したいと思います。

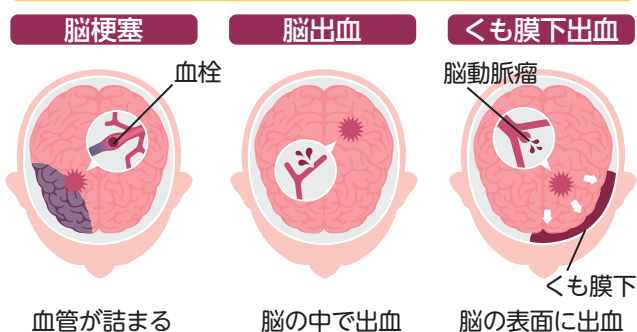
脳卒中とは、一言でいうと「脳の血管のトラブル」です。大きく分けると、「血管が詰まる病気」と、「血管が破れる病気」があります。

血管が詰まる病気が「脳梗塞」です。

脳は、血液によって酸素や栄養を受け取っています。しかし血管が詰まると、その先に血液が届かなくなります。すると脳細胞はダメージを受け、麻痺や言語障害などが起こります。

一方、**血管が破れて出血する病気には、「脳出血」や「くも膜下出血」があります。**特にくも膜下出血は、「脳動脈瘤(のうどうみゃくりゅう)」という血管のこ

脳卒中の3病型



ぶが破裂して起こることが多く、突然の激しい頭痛で発症します。

脳卒中では「時間が非常に重要」です。

脳は、血流が止まることや出血にとっても弱い臓器です。そのため、脳梗塞では治療が遅れるほど後遺症が残ります。逆に言えば、早く治療できれば、その後の進行を食い止めたり、回復を大きく改善できる可能性があります。

また、脳出血の場合はできるだけ早く血圧を下げることで出血を増やさないために重要です。くも膜下出血であれば、動脈瘤からの再出血予防を急ぐ必要があります。

最近では、脳梗塞に対してカテーテルを使って血管の詰まりを取り除く「血栓回収療法」や、切らずに脳動脈瘤を治療する「脳血管内治療」が広く行われるようになってきました。以前であれば助からなかったような患者さんが、自宅へ歩いて帰れるようになる場面も、決して珍しくありません。

もちろん、**最も大切なのは予防です。**

高血圧、脂質異常症、糖尿病、喫煙、不整脈などは、脳卒中の大きな危険因子です。日頃の健康管理が、将来の脳卒中予防につながります。

そしてもう一つ大切なのが、下記の症状が出たときに「様子を見すぎないこと」です。



こうした症状が突然出た場合は、一晩様子を見たりせず、すぐに医療機関へ相談してください。

次回は、脳梗塞治療でよく使われる

“Time is Brain”

という言葉についてお話ししたいと思います。



門岡 慶介(かどおか けいすけ)
亀田脳神経センター 脳血管内治療科 部長
出身地：鹿児島
2006年九州大学医学部卒。
日本脳神経外科学会 専門医・指導医、日本脳神経血管内治療学会 専門医・指導医、日本脳卒中学会 専門医・指導医

【ご紹介いただきたい疾患】

脳動脈瘤、AVM(脳動静脈奇形・脊髄動静脈奇形)、動静脈瘻、頸動脈狭窄症など

